



# 日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

No.

96.4.8 4373

## 久留里線で車輪が異常磨耗

### 「抜本的な対策が早急に必要だ」

昨年一〇月頃より、久留里線を走る気動車の車輪のフランジが異常に削れてしまうという現象が発生している。

千葉支社当局は、本年二月一日の団交の際に、動労千葉がこの現象の対策と原因調査を求めたことに対し、「対策としては、気動車の車輪転削や車輪交換を幕張電車区において行う。」として回答したが、あくまでもこれは、その場限りの対処策であり、抜本的な対策ではない。

また、組合から原因調査を要請したことに対しては、四月五日の団交の際になされた回答は、「線路は異常はない。」「偏磨耗に関する傾向を調査している。」との回答であり、抜本的な対策に着手する段階ではない状況である。(また、組合からレールが異常に削れているとの指摘に対し、「もう一度保線の方に確認してみる」との回答であった。)

九四年一〇月に、久留里線はレール交換を行い、内房線で使用した中古レールを取り付けた(久留里〜上総亀山間)。それから一年余り、レールが異常に削れている状況となっている。

(写真・図を参照。)

木更津から上総亀山方向に見て、右カーブの外側レールが異常な形で削れているのだ。反対に左カーブの外側は、そのような現象は出ていない。

特に、減っているところは、

(1) 久留里〜平山間・キロ程にして二三〇〇〜二四〇〇

(2) 平山〜上総松丘間・二七〇〜二八〇

(3) 上総松丘〜上総亀山間・二九〇〜三〇〇

六五〇

である。

気動車の車輪も木更津から亀山方向に見て、右カーブの外側つまり左側が偏磨耗を起こしている。

車輪の偏磨耗は、昨年の一〇月頃、つまりレールが交換されてから約一年で、右カーブの外

側のレールが削れ、車輪が偏磨耗を起こしている。と考えるのが妥当ではないのか?

### 車輪転削や車輪交換は小手先の対策

前述のとおり、支社の考えているこの車輪の偏磨耗に関する対策は、「車輪の転削・交換」だけである。これだけでは、すまされない問題ではないのか。

車輪転削・交換以前には、転車台で気動車の前後を反対にするということもやったが、一旦磨耗した側の車輪は、車輪の外径の焼き入れ部分が薄くなつてしまっており、やはり磨耗した車輪の方がさらに磨耗してしまっている。

レール交換から約一年でそうした現象が発生し、それから約半年が経過している。レール自身も異常な削れ方を起こしている限り、車輪に影響を及ぼし続けることは必至である。

また、現場の運転士の報告では、レール交換をした後、車輪とレールがすれ、キーキーという異音が聞こえたという。線

間が狭いのではないのかという意見もある。また、反対に中古レールに交換した久留里〜亀山間ではなく、その以前に新品レールに交換した木更津〜久留里間は、問題はないと言っている。

千葉支社は、早急に木更津支区で発生している気動車の車輪の偏磨耗問題について抜本的な対策を構すべきである。

【写真1】木更津から上総亀山方向を見て右カーブの外側のレールが異常に削れている。問題区間では、レールの頭部分が上から下まで、図1のように削られ、頭の下部分には「バリ」が出ている。

【写真2】レール下のバラストの間には、車輪から削り取られた「鉄粉」が散在している。

【図1】異状な形で削り取られたレールの断面図。問題の区間では、斜線部分が削り取られてしまっている。

この部分

